

焼津から能登半島へ

継続中

令和6年能登半島地震

職員の被災地支援

市では、「令和6年能登半島地震」の被災地支援として、県や県内各市町と連携して、石川県穴水町をはじめとする被災市町へ、被災建築物応急危険度判定や給水活動支援、避難所運営などの各種災害対応に職員派遣を行いました。

現在は、中・長期の支援活動を行っています。引き続き、一日も早い被災地の復旧・復興に向けた支援を行ってまいります。

職員の
派遣実績
(6月15日時点)

市職員・志太消防本部職員など
のべ**140**人以上を派遣

【主な派遣先】



詳しくはこちら

職員の派遣レポート

被災建築物の応急危険度判定

■活動内容

人命に関わる二次災害防止のため、被災建築物の倒壊などの危険性を判定し、判定ステッカーで住民などへ結果を周知しました。

■印象に残ったこと

古い木造住宅が多く、調査した半数以上の建物が、最も悪い評価となる「危険」と判定されるほどの被害を受けていました。耐震対策の重要性を改めて痛感しました。

■今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

被災後、できる限り迅速に応急危険度判定を実施し完了することが重要であるため、焼津市における震前対策を練ってまいります。



避難所の運営支援業務

■活動内容

避難所に常駐し、物資や災害医療支援(DMAT)などの支援受け入れや避難者の入退所管理など、避難所生活が滞りなく送れるよう幅広く支援を行いました。

■印象に残ったこと

避難所生活が、避難者同士の協力のもと自主的に行われていたことです。その他、地域コミュニティの意義や「自助」・「共助」・「公助」の重要性を実感しました。

■今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

被災者支援に限らず、支援を必要とする人の気持ちに寄り添った対応を日頃から心掛けたいと思いました。

また、災害に備え、防災知識や対応力の向上に努めてまいります。



応急給水活動

■活動内容

石川県七尾市と珠洲市で、給水車による応急給水活動を実施しました。

■印象に残ったこと

お茶などの小さいペットボトルを利用して水を汲む人が多かったため、各家庭で災害用に持ち運びのしやすい容器の準備が必要と感じました。

■今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

発災後は全国から給水車が集まる想定です。効率良く給水活動が行えるよう、支援の受け入れ体制づくりに今回の経験を生かしたいです。



住家被害の認定調査

■活動内容

住家被害を受けた被災者が各種支援金などを申請する際に必要な「り災証明書」の発行に向けて、住家の被害程度の認定調査を実施しました。

■印象に残ったこと

専用アプリが入ったタブレットを用いて調査を実施したため、経験の少ない職員でも1棟当たりの調査を迅速かつ正確に実施できたことです。

■今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

南海トラフ巨大地震などに備え、平時から災害時における調査体制や職員の知識向上など改めて見直してまいります。



上水道管応急復旧(漏水調査)

■活動内容

石川県珠洲市で漏水発見機や音聴棒を使用して上水道管の漏水調査を実施しました。

■今後の業務・自身の災害対策に生かしたいこと

日頃より水道管網情報などを正確に把握し、発災時の迅速な復旧活動に生かしたいです。



緊急消防援助隊

志太消防本部



■活動内容

石川県珠洲市へ、消防・救助・救急・支援の4隊を、1月1日から21日まで交代で延べ93人派遣しました。

行方不明者の捜索や被災者の救急搬送を行いました。

災害医療支援

DMAT派遣



■活動内容

焼津市立総合病院より医師・看護師などを派遣し、石川県内の病院や特別養護老人ホームなどでトリアージをはじめとする災害医療支援活動を実施しました。その他、避難所で避難者の診療を行いました。

派遣職員の1日の活動スケジュール(例)

派遣職員は、移動時間も含め、一日約13時間に及ぶ支援活動を行い、被災地の復興に取り組みました。

